

## 令和6年度 第1回京丹後市史跡整備検討委員会 会議録

- 1 **開催日時** 令和6年5月28日（火） 午後1時30分～午後4時10分
- 2 **開催場所** 網野保健センター 2階 集団研修室
- 3 **出席者** 三浦到会長、杉原和雄副会長、藤田泰弘副会長、吉岡ひとみ委員、小林朝子委員、藤原可苗委員、奥田幸子委員、梅田和男委員、毛呂敏弘委員、澤吉博委員、久保有紀委員、京都府教育庁指導部文化財保護課 中居和志主査、京都府教育庁指導部文化財保護課 古閑正浩主査（事務局 松本明彦教育長、川村義輝教育次長、村田雅之文化財保存活用課課長、岡林峰夫文化財保存活用課課長補佐、藤田智子文化財保存活用課主任、村上公太文化財保存活用課主任、橋本琢人観光振興課係長（代理）、稲岡信一土木課課長）

**欠席者** 岸本直文委員、小山元孝委員、松井敬代委員、野村安正委員

### 4 議事

- 1 開会挨拶
- 2 議事
  - (1) 令和6年度網野銚子山古墳の整備工事について
  - (2) 整備工事完了後の活用等について
  - (3) その他

5 **公開又は非公開の別** 公開

6 **傍聴人の人数** 0人

### 7 要旨

## 1 開会挨拶

事務局： ご多忙の中ご出席をいただきまして、本日は誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより令和6年度第1回史跡整備検討委員会を開会させていただきます。開会に当たりまして、京丹後市教育委員会教育長 松本明彦がご挨拶申し上げます。

教育長： 皆さんこんにちは。第1回の京丹後市史跡整備検討委員会開会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

皆さん本当に雨の中、足元の悪い中、ご参加いただきましてありがとうございます。また、遠方からお越しの委員におきましては、南のほうが強かったということですが、ご参加いただきまして本当にありがとうございます。

いよいよこの史跡整備検討委員会につきましても、銚子山の整備計画が、本年度が最終年度となっておりますので、そうしたことも踏まえ、これまで検討いただいたことを、丁寧に確実に、皆さん総意のもとで進めていきたいと思っています。本当に、活用ということが強く求められているところでありますし、来年度からの活用というところについて、私は3つの視点があるのではないかと考えているところです。1つ目が、地元、地域、地区の皆さんがどのような活用を図っていこうとされていて、それを市がどう支援できるのか、さらには市民の方々がどのように銚子山のことについて理解し、児童・生徒が教育の場として利用していくのかという教育の視点での活用、さらには市外の方々のいわゆる観光の視点での活用という、この3つの視点をどうしっかりと両立しながら、保存だけではなく活用を図っていくかということが本当に重要になろうかと思っています。

本年度の会議の中で、そうした視点も持ちながら、皆さんから多様な意見をいただきながら、来年度4月にいよいよオープニングイベントを考えておりますので、盛大にそうしたオープニングイベントをしながら、内外のほうへ発信していき、しっかりと保存活用していきたいと思っています。この1年間またどうぞよろしくお願いいたします。

事務局： ありがとうございます。次に、会長からご挨拶をいただきます。会長よろしくお願ひします。

会 長： ご苦労様です。今教育長さんからありましたように、今年度が最後ということになります。墳丘の整備はほぼ終わっているわけですし、今日は登る方法だとか、あそこに置く説明板などの道しるべ等につきましても、どこに置いたらいいのかというような最終的な話をしていきたいと思っていますので、最後までよろしくお願いをいたします。

私も5月に2回、住民の方々を網野銚子山古墳に案内する機会がありまして、そのときの経験なんかもまたお話をしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。以上です。

事務局： ありがとうございます。それでは、お手元の会議次第によって進行をさせてい

ただきたいと思います。以下の議事の進行は、三浦会長にお願いしたいと思います。  
それでは三浦会長、よろしくお願いいたします。

## 2 議事

### (1) 令和6年度網野銚子山古墳の整備工事について

～事務局説明～

会 長： ありがとうございます。今日欠席されている方々に事前にご意見をいただいているということですが、もしあったらそれを報告してほしいのですが。

事務局： 委員の意見は、最後の資料1-7の①は老朽化が進んでいるので諦めたほうがよいのではないかとおっしゃっていたのと、あと、②③の本覚寺付近の誘導サインにつきましても、老朽化も進んでいるから新設も考えたほうがよいのではないかと、2点のご意見がありました。

会 長： そしたら資料1に関して皆さんにご意見をいただきますが、私から最初に言わせていただいてもよろしいですか。網野町郷土文化保存会の第1回歴史講座を5月23日に開催し、25人ほど参加していただきまして、網野銚子山古墳を知る講座というふうなイメージでやりました。そのあとに私が案内したのですが、資料1の最初のページで、駐車場から矢印がずっと出ていて、こういうふうに登っていったらよいのではないかというようなことで出ています。去年までの検討の結果、やはり前方部から登っていくべきだろうということでこういう格好になったわけですが、実はこのくびれ部のところに葺石が復元されて階段ができたということになりますと、私が考えたのは駐車場の②（資料1-1）のところが、唯一古墳の全体像が見える場所なので、ここで全体について説明をして、そのあと前方部に行くのではなく、くびれ部のところの葺石が復元してある場所に行って、そこで墳丘だとか段築の話や埴輪列の話だとか、墳丘に関するような内容を説明する。それが終わってから前方部に登り、それから後円部の頂上に移る。後円部の頂上で説明する内容というのは、ここに書いてある立地と潟湖の話も当然するのですが、もう1つ私が思ったのは、参加者の人は誰が葬られているのだろうというのは大きな関心があって、どこに埋められているのかということがある。それも今回、天理大学のレーダー探査で、この辺にあるだろうということが分かったということなのですが、そういうことについての説明をする。それが終わったら、下りは逆に前方部の先端部に向かって下りて行く。そこから墳丘を下りてしわ椀跡に向かい、浦島太郎の話なんかもできるというふうな格好で、ぐるっと回るコースが一番よいのではないかということで、レジメ（会長配布資料）はそういう意味でつくっています。

これが一番説明しやすかったということなのです。いきなり後円部に登って後円部で潟湖の話から始めるというのは、どうも話の順番として面白くない。やはり資料1の②（資料1-1）のところで古墳のこと、それから墳丘のことにつきましては③④（資料1-1）のところ、というような格好が一番スムーズにいくかなというのが私

の実感であります。そういうことを最初に私から申し上げておきたいと思います。

それらを含めまして、どんなことでも結構です、いかがでしょうか。以下の内容のことでも結構です。

委員： ご意見いろいろあると思いますが、外部提供ということで私が気づいたことを少しお話しさせていただきます。これだけの資料をつくられるのは、かなり時間と労力がかかって大変だっただろうと思います。まずそれがよく頑張っておられるなと思いました。

その上で、まずはその資料1-1の地図ですが、ここで疑問に思ったのは、上のほうの網野銚子山古墳の既存の説明板を利用するのはいいと思いますが、見学推奨ルートが書いてありますよね。これは下の民家の隙間を縫って上がるコースですよ。これは、地元の方がどう思われるかなというのと、それから、このルートがあったほうが確かにいいのはアミティ丹後から徒歩で来る人。先ほど車で来る人を中心に考えた案ですとおっしゃっていたので、あまり徒歩の人のことはこれから考えられるのかも知れませんが、アミティ丹後は1つの拠点なのでそこへ来られた人に網野銚子山古墳へぜひ登ってほしい、ぜひ寄ってほしいと思います。そうするとこのルートで上がってくるのが一番いいですよ。ただ、地元の方が了解されるかどうかということが1つ気になります。

それから、これは前にもお話したと思いますが、2枚目の資料1-2の石造設置型の説明板を設置されるのです。こういう平面系で石で囲うのはよいと思いますが、この縁石の角を面取りしておくべきです。面取りしておかないと、まず1つは、よく欠けるということと、もう1つは人がこけたときに怪我が大きくなる。だからこれはぜひ面取りされたものを、4基設置されてはどうかと思います。

それから資料1-6、史跡外誘導サインですが、先ほど車中心ということでしたが、1つは本覚寺の横から上がるルート、あれは他府県からの人たちにね、あの道をわざわざ教える必要はないと思うのです。あの道は危ないんですよ。本覚寺さんも嫌がられるでしょ。多分、今までのお話を聞いているとね。だからこれは、道としてはあるわけですけど、アミティ丹後でルートの案内をするときや、案内板等を立てるときに、この道は出さないほうがよいのではないかと。地元でご存じの方だけ使う。他府県の方は落ちますよ。下手したら。

もう1つは駅前ですね。これは、それこそ車の人だけではなくて徒歩の人が一番気になりますよね。駅を降りたときに、網野銚子山古墳だけでなく、静御前さんの神社とかほかの名所もありますよね。そういったものが分かる案内板を駅前に立てるとともに、網野銚子山に徒歩で行かれる方のコースの案内が駅前に必要ですよ。駅を降りたときに、このまちには何があるのか。特に網野銚子山古墳を我々は中心中核として位置づけるわけですから、網野銚子山古墳は特にこうして行ってくださいというような、何かその辺の工夫をして、古墳近辺のいろいろなものも、ここで案内しておいてあげたら行きやすいですよ。網野銚子山古墳だけを目指して来る人もあるけれども、古墳のついでにほかも見ようというのが普通ですわね。それが分かる案内板が駅前にほしいので、これは車だけの問題じゃなくて徒歩で来られる方へもそのサービスがいるのではないかと思いますね。全体的に徒歩の人向けがないことが具合悪いです

ね。駅前はむしろ徒歩の人を重視すべきでしょうね。丹後だから車だとは思いますが。

それと誘導サインには、網野銚子山古墳まであと何メートルとかいう距離表示を必ず入れたほうがよいと思います。あと300メートルとか50メートルとかで銚子山古墳に着くなど。特に団体で来る場合なんかは目印がないと困るので。1人の場合はうろうろしているうちにいろいろ分かりますけど。

この資料1で私が感じたのは、そんなところですよ。

会長： 私も追加で誘導サインのことですが、資料1-6で、委員のほうから②と③は不必要だということで、私もそれでいいと思いますし、④がメインルートになって④から⑤に上がり、⑤のところから駐車場に向かってまっすぐ上がるのですが、途中で1つ道があるんですよ。改良されて結構広い道になっているので、あそこを越えたあたりに駐車場はこちらという矢印ぐらいの簡単な誘導サインを設置したほうが、そこで右とか左とか悩む人がひょっとしたら出てくるかも知れないので、まっすぐ上がるという格好での誘導サインが必要かなと、聞いていて思いました。

委員： 車で来る人は駐車場があるのかなのか、駐車場がどこなのかというのは絶対知りたいんですよね。銚子山から遠いところに立てる誘導サインには、古墳だけの方向性とか距離だけではなく、駐車場があることを明示しておかないと、例えば駅前にも、銚子山には駐車場がありますよというのが並列して書かれていないと。古墳を案内するイコール駐車場を案内するというぐらいの感覚で変えていったほうがよいのではないかと思いますね。車で来た人は一番最初に駐車場ですよ、問題は。

委員： ついでに申し上げますが、資料1-3に、説明板②にというのがありますね。これが石造設置型の説明板なのですが、ここは別にこれで管理するよりも傾斜タイプのほうがよいのではないかとふと思ったのですが。どうなのでしょう。ここは墳丘に関係ないところですので、傾斜タイプのほうがよいのではないかと思います。

事務局： ご意見ありがとうございます。たくさんいただきましたので、順番にお答えさせていただきます。

まず、資料の図面について、ご意見いただいた中で訂正と言いますか、補足をさせていただきます。資料1-1の図面ですが、ベースで使わせていただいている図面が史跡整備の最初の頃の段階の地図の上に、コンサルさんが書いてくださった地図の上に今の現状のものを入れているものになっております。そのため、資料1-1の図面ですと、この見学推奨ルートというのは、僕が来るおよそ1、2年前の段階での推奨ルートのお話の構成が、ここを全部してしまうと見えにくいので残ってしまっているというようなものを使わせていただいているがゆえのルートでございます。

先ほどの、駅からというところの史跡外の誘導ルートの部分のお話にもなるのですが、冒頭の事務局説明で車を中心というふうにご説明させていただきましたが、資料1-6で、車で来ていただく想定というのは赤矢印の誘導ルートになります。ですから、網野の南側の久美浜、峰山方面から来ていただく際のルート、それから丹後町

のほうから来ていただくルートという意味での2本の矢印が④のところで集約して駐車場へ向かっていくというのが車のルートでございます。青のルートが、駅から来られる方、これは徒歩、例えば自転車なんかを借りられた方というところのイメージのルートです。緑がアミティ丹後から来るルートというイメージで描かせていただいている線です。左上に小さい囲みで、そういうようなことでお話しさせていただいたものなんですけど、説明がありませんで申し訳ございませんでした。

イメージの中としては、基本的にはできるだけ同じ、車だから、徒歩だから、自転車だからと、複数のいろいろなルートに行くのではなくて、大きな流れとしては、舗装道路沿いを網野銚子山古墳のほうに近づいて来ていただく。車の方は、駐車場に行くための④のところで曲がっていただく。徒歩や自転車の方は、本覚寺さんのところのここが舗装面でほかと比べて広いので、そこから上がってきていただくというような形で、以前の委員会のお示ししていたものと基本的に内容は同じになっております。駅からの案内の部分に関しては、観光公社さん等の案内所もありますし、我々の置くパンフレットですとか、既存の案内看板、それから我々がこの3月につくらせていただきました京丹後市歴史文化めぐりマップというデジタルマップも併用しての誘導というところで考えておりました。

なお、①のところに本来ですとこちらへという誘導サインを貼らせていただく予定であったのですが、老朽化の問題と、その中の構造ですとか、他も使っておられるということで撤去を単純にすぐにはできないというわけでもないという調整があるので、ここについては、今年度すぐではなくて、保留にさせていただいて、②③④⑤をまず先に、来年のオープンに向けて設置させていただくというような感じで、本日説明をさせていただいております。

また、②と③は既存サインを利用すると資料1-7で表示してありますが、駐車場へ向かう側についてはご指摘いただいたように駐車場こちらというのは入れさせていただこうと考えております。

⑤の先、会長からご指摘いただいた⑥のところも想定は最初していたのですが、検討の中で、直線で既に駐車場が見えているのではないかとというところで削除した経緯がありますが、それは改めて検討させていただければなと考えております。

ほかにご指摘いただいた部分ですと、石造設置説明板の面取りですね。こちらは以前にもご指摘いただいたものでございますので、我々もその部分については安全に配慮して面取り等の構造にしようと考えております。

説明板②を斜め型の傾斜タイプではなく、平置き型にしているところは、②の先のところが、この会議でも何度も出た、一番古墳の全形を見渡せて写真を撮れる、一番スカッと見えるところに説明板がかかってしまうので、我々としてはそこに出っ張りを極力無くし、視野を確保して見ていただけるようにしたいということで平置き型、平置きと言っても若干、やや角度はつくかも知れませんが、地面設置型ということ意識して、②③④⑤については石造設置型という形で考えております。

距離表示、何メートルというのはご指摘の通りですので、特に外からの分については入れさせていただきます。土地感のない方だと本当に一番不安になることだと思いますので、ありがとうございます。

教育長： 駐車場があるかどうかは。

事務局： はい。駐車場というのは入れる前提です。

会 長： 資料1-3の、先ほど説明もあった②の説明板ですが、写真を撮るという話がありました。ここで写真を撮ると銚子山古墳がバックに入るといふ、ここは非常に映えのするところだといふふうに思っています。ぜひいっぺんそこに人を並べて、どんなイメージになるか、スマホでもいいので写真を撮ってみてください。

事務局： そこからの部分も、後ろの納屋のところからも、行く度にバシャバシャ撮らせていただいているので、「いや、引きも、こっちアングルもいいな」みたいな感じで撮っているの、割と好みに合わせて、この幅広のところはできるだけご意見をいただいたようにスカッと。

会 長： 前の委員会でもあったと思いますが、写真撮るときに、網野銚子山古墳という銘板があって、その横で写真を撮こう撮って裏に墳丘が見えるというそういう場所が、その時は琴引浜の看板の話を出しましたが、そういうイメージができないかなど。周溝内部に人を並べて。

委 員： 今のお話はとても大事だと思うので、写真が撮れるビューポイントを考えていかないといけない。今日少し時間があつたので、駅前に行って、駅前から見えないかと思つたが、駅前からは全く見えないですね。駅前に案内板があるかと思つたら何もなくて、地元を紹介する案内板もなかったと思います。詳しくは見なかつたけど、駅前から直線的に川に沿ってフレッシュバザールのほうへ行って、フレッシュバザールの手前で右へ行くと街中へ入れる細い道に橋があります。あの橋の上が一番きれいに、完全に銚子山古墳の全形が撮れますね。危ないですが、下からでは一番よく見える感じがしました。

会 長： ここで撮つたらいいぞといふ、そういう場所を。

委 員： 教えてあげたらいいね。ビューポイントを。

委 員： デザイン次第かなと思います。かつこよかつたら写真撮りたいし、文字ばかりのやつだつたらいらぬし、という感じで、私はそのデザイン次第でいらぬといふ意見でした。

委 員： 観光サイドです。自転車ルートと徒歩ルートについて、当初から話をさせていただいていましたが、うちの支部が網野駅にありまして、そちらで観光案内とか、網野町の観光マップとかもお配りしています。レンタサイクルもしているのですが、ここで設置しているものは全て電動です。近年電動自転車のほうを推していますので、電動とかスポーツ的なロードバイクとか、そういったところが多いと思います。

そうすると、今日の意見でも皆さんが言われているように②と③（資料1-6）の本覚寺前、私も地元なのでそこは結構危険だと思いますので、確かに徒歩としては最短ルート、正規の道の最短ルートであるのですが、あえて出さないのもありなのかなど。電動自転車だと④⑤（資料1-6）で問題なく行けるような感じです。アミティ丹後からは、ほとんどのお客さんが車ですので、徒歩となると、駅からアミティ丹後に来るバスの本数も1時間に1本ですし、なかなか難しく、事前にお調べされる方はうちに電話で問い合わせてもらったり、いろいろ自分でお調べされていますので、観光のタクシーとか、私のところも今年はタクシーを使った周遊ルートを考えていますので、そういったタクシーを使っていたりとかして、徒歩はここの中では確かに難しいなとばらばらなので、私たちは観光案内所なので問い合わせがあったら、レンタサイクルを案内するか、タクシーを案内する場にしようかなとも思います。本当を言うと南小の横から行くのが一番早いんですけど。そこはお客さんに応じて考えます。

あと、先ほど申し上げた電動自転車ですが、かなり高級なので、できればガイダンス施設の駐車場のところに、eバイク専用とか、ロードバイクが置けるような自転車スタンドがあるとありがたいです。風が強いので、倒れて壊れても困るので、そういうのがあればありがたいです。

委員： すみません、そのレンタサイクルの基地みたいなものは、網野には今どこかにあるのですか。

委員： 網野には、網野駅と夕日ヶ浦に設置しております。京丹後市内はそういった設置場所を市のほうも増やしておられて、網野で言うと、公式なところではうちが設置しています。

委員： 網野の駅前では何台ぐらい乗れるのですか。

委員： 今は4台ですが、増やす予定もありますし、場合によってはうちのほかの支部から借りてくることもできます。

委員： それはどこか民間に委託しているのですか。

委員： いいえ。観光公社の網野町支部のほうで運営しています。

委員： この頃あちこちの駅前でレンタサイクルを貸していますよね。たくさんではなくて4、5台ぐらいでやっているところが結構ありますよね。

委員： 網野駅と久美浜駅もうちの支部のほうで運営しています。

会長： 将来的にどうなるか分かりませんが、網野市民局の隣に集会施設ができますね、そこにもそういうものを配置したらいいんじゃないかという話が出ていました。

1点お聞きしたいのですが、ガイダンス施設の一番この奥まったところにつくるということですが、古墳に近いほうがよいかというイメージが湧くのですが、その辺はどういう考え方ですか。

事務局： ありがとうございます。ガイダンス施設、当初前のほうにというお話でご説明をさせていただいていたのですが、前回もありましたが、駐車場用地のところ、入ってくる道路が傾斜のある坂道で、かつ幅が現行の幅以上の大きさには広げられないという都合上、前に施設を持ってくるとどうしても車が急カーブしないと侵入できなくなる。そうすると、大型バスが曲がり切れないということが、計算していただいて分かりました。理論上は曲がれるのですが、理論上曲がれるぎりぎりという、実際に安全に曲がれるかどうかという話でしたので、それを確保するためには駐車場の入口を北西側の角、この図面で示している位置にさせていただいたときに、かつ駐車する車のスペースですとか、バスが頭から入って来て中で転回して頭から出て行けるようにするスペースを考えたときに、ガイダンス施設が一番後ろ側の、史跡から遠い位置になってしまったというのが現状でございます。

委員： ここしかないですね。

事務局： 私としては前に置きたかったのですが、こちら側という形になっております。ガイダンス施設の位置の図面もまだ最終決定のものではありませんが、外側にも古墳のほうを見ながら座れるベンチも設置をさせていただこうと考えていますので、バスが止まっていなければ、座って見ていただいて、草木はあるかも知れませんが、古墳のほうは一応望めるのかなという形も考えております。

委員： 考えようによってはこの場所が一番静かな場所かも知れませんね。バスからも近いし。

会長： しつこいようですが、1ページ目の推奨ルートというのはまた検討するというものでいいですか。

事務局： この推奨ルートは多分かなり初期の段階に、中は自由動線で見えていただくということですので、特にこの推奨ルートというような形での案内はしないという予定になっております。

会長： それと、周溝の中を歩くというのは、別段何も問題ないですか。

事務局： 周溝のグラウンド舗装しているところを歩くということですね。歩くということでしたら特に問題ないです。

事務局： よく近くのこども園の子どもたちも来てくださっているんですけど、もうすぐにくびれ部のところから入って墳丘に登って遊んでいるという状態が見られますので、

中を通っていただくほうが安全でいいんじゃないかと思います。

会 長： 資料1に關しまして、その他ご意見がありましたら。

委 員： 資料1-1の⑦のしわ榎のところに今駐車スペースがございます。この駐車スペースというのは、完成した段階でここには駐車ができないようにするのでしょうか。

事務局： 以前にも同じご質問があったと思いますが、基本的に周濠の中ですので駐車場という形では使えません。ただ、車止めとかは設置をせずにおこうと今考えております。現状のままということです。

委 員： もう1つついでに、小銚子古墳と寛平法皇陵の草刈りはお考えになっているでしょうか。案内板を作るとあるけど、案内板だけで終わるのかな、さあどっちだろうと思いつながら話を聞いていました。

事務局： 寛平法皇陵につきましてはお寺の土地ということもございますし、お寺のほうで管理していただくということになるかと思ひます。小銚子古墳につきましては、墳丘のところはなかなか予算的なこともあり手が回っていませんが、その周辺のところは、年に1回草刈りを入れさせてもらっているという状況です。

委 員： ということは現況の草刈りはそのまま継続するというところでよろしいですか。

事務局： そうですね。現況こちらでさせていただいていることはそのまま。

委 員： 連合区のところは連合区で肅々と草刈りをしますが、一番気になっているのは、駐車場から古墳に行く道中の、今発掘調査をされるところの私有地の雑草はどうするのかと思っています。地主も知っている人や知らない人がいますが、その辺はどうお考えですか。

委 員： 本覺寺から上がってくる道は非常に急で狭いということもあって、地元の人は軽トラックなんか使って上がったりしますし、私も自転車で上がることはありますが、下りは非常に急なので危険ですし狭いです。

それから寛平法皇陵の草刈りについては、以前、寛平法皇陵祭という祭りをイベントしてまして、そのときには長田区民が全員であそこをきれいにして、その上でいろいろなイベントをやったということがあります。最近はコロナ禍で下のほうでイベントをやるということもあって、檀家でいわゆる本覺寺の土地として半分、残りが市の所有ではないかと思うのですが、本覺寺としては、あそこに寛平法皇陵の社が1つと、もう1つ社がありますが、その掃除をするために草刈りもやろうではないかというようなことは寺のほうでも考えてはいるのです。毎年1回やろうというのは、ただ残り半分については、やるかどうかということになりますと、これはまた市のほうで考えていただいて、連合区がするのか、また地元区にその依頼が来るのか、別に

シルバー人材センターなどに委託するのか、その辺のところは考えていかなければならないと思います。

それから銚子山へ登っていくための、1つは本覚寺の道路、もう1本先に寛平法皇陵線という土道があるのです。これは再三何度も長田区としては舗装してくれと。あそこはすぐに上がって、銚子山へ歩いて来る分にも車で通る分にも非常に便利です。さらにもう1本向こうに行くと観光バスが通れる大きな舗装路ができています。駅から歩いて来る場合は、たぶん南小学校側にジュンテンドーのあたりから上がって土道を登ったほうが、府道を歩いたり自転車で行くよりも安全だろうと思いますし、南小学校への登校路の登り口のほうですね、歩いたり自転車で行って土道に入ればすぐ目の前に見えますから、そういうコースもあるだろうなと思います。あと山田文心堂さんの横に1つ、それから本覚寺さんとの間にもう1つ上り道があります。

そういう経路もありますから、どういうふうにされるにしても、登り口の草ですとか土砂ですとか、そういうものの管理が必要だろうと思っています。以上です。

委員： 資料1-5の駐車場ですが、私ら素人が考えてもうまくいかないと思うんですけど、自家用がずらっと20何台並びますよね。自家用車で来た方たちが降りて古墳に向かうときに、ぞろぞろと駐車場の広場を歩いていくことになりますよね。そうすると、車がまた駐車場へ入ってくる。先についた人は、車が出入りする道を通って出入りすることになる。全員がこの点字ブロックの道を必ず歩くように誘導していれば別ですけど、点字ブロックはL字型にだけしかありませんよね。そうするとこの20何台の人たちというのは、どうしても自由に降りて自由に歩いて、この自動車が出入りする出口から出るということになるんですかね。その辺は大丈夫ですか。車と人が交差すると思うんですけど。ちょっと検討していただいたら。

会長： もう細かい設計までできているのですか。

事務局： だいたい。

委員： 道を全周回せば問題ないですよ。反対側のほうにも点字ブロックをつけて囲ってしまえば、この中は歩かなくて済むんですが。

委員： 駐車場の入り口は何メートルぐらいありますか。

事務局： ありがとうございます。駐車場の動線の部分ですが、どうしても車を停める場所なので、囲うと車が入れないというジレンマになりますから、例えば皆さんご存じのないいわゆるパーキングエリアとか高速道路とかの、駐車場へ行く道で色を変えた舗装とか、あるいは白線で、横断歩道じゃないですけども、人が通るよというようなそういった形で誘導させていただくというのをに入れていくというのが、最善ではないんですが最良という形になるのかなと考えております。入口部分の幅ですが、10メートルに足りないぐらいの幅になるのではないかと。正確な図ではないので、概算にはなるんですが。

会 長： そのほかございませんでしょうか。そうでしたら次にいきます。

そしたらですね資料3と資料4のガイダンス施設の説明板。今配られたばかりでなかなか検討もしにくいかと思いますが、思いつくままにお話をいただきたいと思いません。

私から最初に行きますと、資料3の③葺石の部分です。1つは、後円部の頂上から一番下までずどんと掘りましたよね。あの圧巻の写真がほしいなと思えますね。こういう古墳だよという。

事務局： 残念ながらいい写真がなく、目で見ると写真で撮るとではスケール感が全然違っていて、私も使おうかと考えたのですが、細い貧弱な写真にしかならず。

会 長： でもやっぱりね、斜面が下段から上段までずどんと葺石が見えるというのは、それは非常に重要なと思うんですよ。なかなかずどんとは撮りにくいかも知れないので、下段の部分と中段の部分とか合成したりして、何かできないかなという思いがあります。

やはり普通の人にはイメージできないのですよ。今葺石の一部がくびれ部のところに復元してありますが、あれだけだとね。どう思えますか。

委 員： 葺石については僕も、上からの写真があるといいなと。圧倒的ですからね。今、くびれ部のところにあるのはほんの一部ですので、あれですらこの前の網野町郷土保存会の講座の参加者は「これ本当に葺石ですか」と聞いている。そして会長が、これは本当にあったものをそのまま使った葺石だと伝えたら感動されてね。それが全面に上から下までずっとあったとなると、また全然意味が違ってくると思いますので、ぜひとも、写真はたくさんあると思いますので、その中でいいのを選んで、上から下までやってほしいなと思えます。縦長の説明板にしてもいいと思えます。

会 長： それからくびれ部ですね。くびれ部の後円部から前方部に至る、後円部のところは丸くなって、前方部にいくと直線で行くと。その写真はドローンで上空から撮った写真はありますか。もう少し俯瞰して、後円部と前方部がここで変わるんだよという写真が欲しいなと思って見ていたんですけど。

事務局： ドローンで撮った写真はないんですけど、その当時そんなにドローンが流行っていなかった部分もありましてドローンは使ってないんですけど、報告書に一応、上からの写真は載せています。

会 長： ④の写真でくびれ部がありますよね、右側のほうに行ったら奥の多くのほうが後円部でこう曲がってきて葺石がずっと手前あるでしょう。これが中段の部分の葺石の一番下の石なんです。こういうふうにきれいに、後円部と前方部に分かれるという格好じゃないとだめなんですけど、これはあまりよく分からない。もう少しよく

分かるような写真がないのかなという感じです。そこ重要なところですよ。一般の人は、くびれ部が何なのか分からない。

委員： 私が気が付いたことを話していいですか。資料3、4で、写真の話がありました。この写真に人物をもう少し入れたほうがいいですよ。遺構の写真だから人が入ったらいけないというのは、それは報告書とかいろいろなもので人が入らないほうがまともな写真なのでそれを使いがちですが、こういう一般の人に対して説明する部分での写真には、できるだけ人が入っていたほうがよい。資料4の【3】発掘調査でわかったことの中の巨大な葺石の写真には人が入っていますよね。例えばこういう感じで、適当な写真があるかどうか、いざとなると人が入った写真というのは探してもなかなかないので、これは初めからそういうつもりで写真を撮っておかないとないですね。だけど、できるだけ探して、例えば、資料3の③とか④でも、人がすぐ横に蹲っているとか、座っているとか、作業を端のほうでしているとか、そういう写真があれば入れられたほうが、葺石だ、くびれ部だと言っても石が見えているだけという感じになってしまう。一般の人は、人が入っていたらほっとする。「これは人がやったもんだな」ということに繋がるんですね。

皆さんご意見あったらおっしゃっていただけたらいいんですけど、私から先に気が付いたことを言わせていただきますね。

まず資料3②の本文の説明のところ「墳丘高は海側で17m」、これは分からない。専門家とか掘った人は分かるけれども、一般の人にはこれは、一番高いところは18なのか17なのかあれですけど、墳丘の高さも18mとかね。そういう言い方のほうがよいのではないのでしょうか。

それから、②の右端の赤い写真です。これは今流行りのオルソ画像かなんか言うんやね。

事務局： 赤色立体地図。

委員： そういう図だということを書いておかないといけません。特殊な写真だから一般の人が見たら分からない。「オルソ画像による」とか。そういうことをちょろっと書いておいたほうがいいかも知れません。

右側の本文、上から3行目、「各段の平坦面上には埴輪を」とありますが、「上」はいらないでしょう。「平坦面には埴輪を並べていました。」と。

全体的に文章がソフトでいいとは思いますが、部分的気になりました。

それから、左側の史跡名称、これは正式名称を書かないといけないわけですが、指定年月日とか追加年月日が西暦で書いてありますね。これは、ある程度公的機関が、特に文化財の公的機関である場合は、やはり暦年、元号ですね、大正とか平成を先に書くべきで、西暦は後ろへというのが普通。誤りではありませんが、これは文化庁の文書見たらみんなそうなっている。

事務局： すみません。専門的なことをいろいろ細かく言っていただくのはすごくありがたいのですが、ほかの方の意見もお伺いしたいと思いますので。これで決定ということ

では当然ありませんし、また個別でいろいろとご意見伺いながら。

委員： 昭和何年というのと西暦何年というのと、それは、昭和を先に書く。これはほかの文章にも出てきますけど、そのときは昭和が先に書いてあったりというのもありますから、そこは統一して、元号を先に書いて西暦を後ろに書いて、年は先に、昭和何年、括弧西暦という書き方があれですな。だからこれだったら大正11年（1922年）3月8日になる。

それから、小銚子の説明のところ、最後のほうですけど、「網野銚子山古墳で見つかった埴輪と差はなく、同時期の古墳と考えられています。」何の差がないのか分からないので、網野銚子山古墳で見つかった埴輪とは形式に差がないとなるわけやけどそれは難しいので、そこは工夫してもらって、こういう点が違うので違うけれども、これはどこも違わないけれども、同時期やと、要するに同時期でいいんですよ。

会長： 文章については、今日初めて見るところがあるので、これはまだのちほど意見のある方は出してもらおうということによろしいか。

事務局： はい。個別でご意見いただけたらと思います。今提示させていただいている資料3、4については、デザインですとか、並びだとか、そういった面からのご意見なんかもいただけたら嬉しいので、委員の皆様よろしくお願いします。

会長： ②の銚子山古墳の大きな説明板の下に文語体で書いてあるのは何ですか。

事務局： 文化庁の文化財保護法の決まりで説明板にこういうことを書くことの中に、指定理由を書きなさいという形で、銚子山の指定理由を探したら、文化庁オンラインデータベースの中にありました。

会長： これも本文にあります。

事務局： それを噛み砕いて、ただ指定理由が古すぎて、松林があるとか書いてありますが現在はなかったりとか、小銚子古墳は前方後円墳型であるとかいう指定理由になっていましたので、少しそれを変えさせていただいて、今回左上の小さいところ指定理由という形で書かせてもらいました。今後見ていただければと思います。

委員： 素人の立場で参加させてもらっている意見としては、どのレベルに合わせた説明板や解説パネルをつくりたいのかという前提がないなと思っていて、委員とも話ししていたんですけど、唐突に葺石とか、平坦面とかいうような言葉が出てきますが、それを知っている人前提の話だなと思っていて、どうしてわざわざやっているのかという価値概念がそんなにないです。素人が見てテンションが上がるものにするのであれば、これはそんなにヒットしないというのが感想です。結構すごいところなので、説明しすぎたくなるのも分かりますが、例えば城崎マリンワールドに新しくできた資料館みたいところは、すごく文章が少ないけど視覚で分かるとか、どう

してすごいのかということが素人でも分かって、全部の解説パネルを目で追いたくなるような感じでデザインされています。今のこのデジタルの時代に、説明板や解説パネルでこんなに文章で説明する必要があるのかな。逆にこの葺石がどうして使われていたのか、すごいのかだったりとか、まず古墳の構造がどういうものかを知らないの、それが何でここはこうだったからすごいんだというところの前提がそんなにないなということ、率直に感じました。デザインとかはそのうちに変わっていくと思いますが、この色分けの意味は何だろうとか、道路につける誘導サインや建物のデザインとかもそうですけど、このデザインを見たら、銚子山古墳のものだというような、統一感のあるロゴデザインだったり、何か統一感を持たせて、ただの観光客の人にもヒットするようなものにするのであれば、もう少し説明する方法が変わってくるのではないかなと思いました。

委員： 文言は、あとでメールなどで、送るということでもいいですか。

事務局： もちろんいただきたいです。9月ぐらいまでには、できれば8月ぐらいには決まないといけないので、何度かやりとりを委員さんとさせていただきたいと思いますが、デザインについても今回初めて出させていただいたので、これが決定というものではなく、どの程度に、どのレベルというか、どの方向けに合わせるかっていうのも、今回一番それを話し合っていたいただきたいなと思っておりまして、これが難しすぎるという総意であればもう少し短くするとか、写真を多用するとかの形は考えておりますので、今回はそれを話し合っていたいただきたいと思います。

資料4は違うんですけども、資料3のほうは説明板を現地に置くという形ですので、なるべく現地の古墳の感じを損なわないように、目立たないようにと思ひまして、③と④を黄色にしているのは、現地に置く場所がグラウンド舗装だったりそういうところなので黄色に、あと、縁の石の色が黄色みたいなイメージで、ここまで黄色くするかは別として、黄色っぽい色で、あまり説明板がそこまで目立たないような形にしようかなと思っています。②が赤いのは、タイルのすぐ横に置かせていただくので、その色に合わせてよく似た赤い色で、またそれも現地になじむ色。緑の多いところに置く説明板については、緑色を多用したほうが目立たないんじゃないかなと、こちらで考えてさせていただいているのですが、これもまたご意見、色とかについて、統一性のある同じ色の方がいいとか、デザインもこんなほうがいいのか、いろいろ教えていただければと思います。

委員： 観光ではなく教育の観点なのかなと思いますが、小学生の子どもさんも読めるようにルビを増やしたほうがいいのかと思います。内容も難しいところもありますが、読めることが前提であってほしいなというところと、もう1点はQRコードがありますが、インバウンドで来た人がこのQRコードを読むという行動に至るかというところ、これだけでは難しいので、何か文言を付けたりとか、「英語でも表示されるよ」というようなものを付け加えてほしいと思います。

会長： QRコードを読み込むとどんなものが出てくるのですか。

事務局： こちらのほうはまだ、残念ながら今回の設計入っていないのですが、将来的に多言語化ということで英語とか中国語とかに翻訳。それもこの文章ではやはり日本人向けの文章なので、まず古墳とは何かとか、古墳時代前期は何かとかいう話にもなってきますので、もう少し簡単なインバウンド向けの多言語化した説明を書きたいなとは思っているのですが、現在そこまで追いついてない状態です。QRコードの周りに、ここを読んだら分かるよみたいな文言が書ければいいかなとは思っています。ありがとうございます。

会長： 先ほど委員からもあった専門用語。葺石なら葺石が突然出てくるということに関する説明として、難しいですが、確かに平坦面ってなんのこっちゃというようなことになるので、そういうところの説明がうまくできるかどうかということでしょうね。

委員： 先ほどの意見に同意で、ルビをもう少し振りしたいということと、小学生の見学は何年生が多いとかありますか。高学年ですか。資料4のほうのパネルは小学生とか車いすの方を考えて背の低い位置に付けるというのであれば、文言とかも小学生でも分かるような、キャッチコピーみたいなものを付けたほうが楽しいんじゃないかなと思います。網野銚子山古墳へようこそという文章も、例えば、日本海側最大の古墳であるとか、銚子山古墳の推すべきところを面白くキャッチーに推した文章をタイトルにした方が楽しいかな。あと、誰が葬られているかということがすごく気になるので、埴輪とかめっちゃめっちゃ触れられているんですけど、そのことが全然触れられていないので、その辺が分からないことだとか、なぜ分からないのかとか、小学生からしたら石室がどこにあるのかとかも分からないので、前方後円墳だったら石室はだいたいここにあるよとか、そういう図とかがほしいかなと思いますね。どんな大きさだとか。以上です。

事務局： ルビのほう資料3の⑤に付けさせていただいて、一応全部付ける予定ではいますが間に合っておりません。文章がだいぶ変わるので全部付けても労力的にはあれなので、すいません。ただ、できる限り付ける、大人しか読まないところ以外は基本全部つけたいと個人的には思っております。

キャッチーなタイトルは、そうですね、なかなか難しくて特に行政人としては正しいことも書かないといけないし、学習の場として教えた子どもに分かってほしいのもあるし、古墳好きのインバウンドもありつつ、観光客の方に向けて、あまりに子ども向けの文章だけでも難しいという形で、本当にちょっと私たちでは決められない、勝手に決めたら今みたいにいろんなご意見が出てしまうという形になって、本当に難しいので、できれば今日決めていただけたらその方針に向かっていけるのですが、それを決めないまま次になってしまうと、次の委員会がかなり後になってしまっていて、できた後になってしまいますので、できれば皆様で話し合っただけないかなと思っています。

委員：今日は活用のこととかも話し合いますよね。次回はいつですか。

事務局：次回は秋頃に予定したいと思っていましたが。

委員：8月までに文章をとということなので、もう1回それまでに集まって、集まれる人だけでもいいですけど、それまでに何番と何番と何番は力貸してくださいみたいな感じで言っていたら。考えてみんなで持ち寄ってとかできるかなと思います。今日この場を出してくださいと言われると無理なので、事前にこういう文章を募集しますとお知らせいただけたら助かります。

委員：資料3、4。私は文章のほうがかむしろ気になるので、文章について私が気が付いたことは、のちほどメールをさせていただきます。先ほど小学生云々ありましたが、こういう文章は小学生の高学年から中学生をターゲットにして書きますね。一般的にというか、博物館でもそうですけど、そうすると大人も読めるという理屈なのです。小学校の低学年には別の取組み方をしないと無理なんですけど、小学校高学年から中学生ぐらいをターゲットに、文面を考えられたらいいかと思います。選ばれている写真とかはすごく的確な、全部重要なものが入っているとは思いますが、最後に1つだけガイダンス施設の中のパネルに、今回出していただいた資料の中には、どこにも網野銚子山古墳を、古いところと言えば昭和から掘っているわけですけど、最近だけでも10年掘っているわけですね。その調査位置、トレンチの位置、いつ、何年にどの場所を掘っているかという総括図、豊1枚ぐらいの大きな図に、銚子山を中心に第1古墳、第2古墳も入ったような、大きな図に、調査年月日と調査位置、埴輪が出た場所とか、写真をぽっぽっぽと入れるとかね、作り方はいろいろあると思いますが、一番大事なはその経過がないのです。今回いただいている資料の中には、全体の経過がない。指定は入っていますが、いつから調査をして整備に至ったかという経過が分からない。調査もどういふふう順番に掘って行って、こういう成果を経て全長201メートルというのを、決めたと言うわけですが、その調査経過を示すものを、文章ではめんどろなので、図面で地形図に、いつもお使いになられているトレンチ入れた図ね、何年の調査はここ、という図。あの図を大きく引き伸ばしたような図を入れて、銚子山が整理に至るまでの経過が分かるものを、何かガイダンス施設に入れられたほうがよいと思います。ご検討ください。

委員：中身のご議論は先生方で直接、今日は岸本先生も来られていませんので、その辺の専門的なところの話とかはまた別個に見てもらわなければいけないのかなと思いますが、1つ気になった点を申し上げます。

資料3の②のトップのところ国指定史跡網野銚子山古墳とありまして、地元の皆様には網野銚子山古墳が名前として定着しているというのは存じていますが、国指定史跡といったときはあくまで銚子山古墳 第一、第二古墳というのが正式名称なので、表現の方法として、後ろに括弧書きで入れるとか、その辺の擦り合わせがいますが、そこを国指定史跡というので出したときには、国指定史跡の網野銚子山古墳

というものは存在しないので、その表現だけは調整をしたほうがよいのかなと思っております。下の方にも書いておられますが、その辺の表現が節々に出てくるところがあるので、気をつけたほうがよいかなと思います。

会 長： ここも国指定史跡と裏側に小さい字で書いてありますが、なくして網野銚子山古墳だけでいいわけですね。

委 員： 例えば網野銚子山古墳で、後ろに括弧で国指定史跡。

会 長： 下に史跡名称が書いてあるのでいいかなと思ったり。ご検討ください。

委 員： 史跡を前に出すとミスリードを起すかなと。

会 長： ということです。よろしいでしょうか。

教育長： 先ほど言ってもらったように、対象をどこにするかをはっきりしないでそのまま持ち帰っても、また同じものが出てくる。つまり、活用ということで、観光メインにする文書にするのか、教育をメインにする文書にするのか、学術的なものをメインにするかが、今曖昧なまま持ち帰ったって、3種類もつukらないといけなくなる。なので、ある程度ここでどういうものか決めないと次を示せないと思うけど。

委 員： 観光を目的とした書き方にしないとあかんのかな。

教育長： 今の議論だとなかなか観光の文章になっていません。学術的なところが本当に大事だというのは分かりますが、学術的な文章と観光的な文章を両立させるのはなかなか難しいと思います。

会 長： 広報誌がそうですよね。小学生の高学年から中学生、その辺ですね。

教育長： そういうあたりをどのあたりにするかを確認しておかないと、次の作業ができない。

事務局： 貴重なご意見ありがとうございます。今ご意見がありましたように、現地に向かう説明板としましてはどうしても観光を意識せざるをえないところがありますし、一方、教育とかでも使っていただきたいというところがあるので、小学校高学年から中学生まで向けてというところで、そういう文章で取り組むというのはよいことだというご意見だと思っております。

基本的に観光向けの文章ということで、表記丁寧に、用語もなるべく砕いていくという方向で考えていければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

会 長： 検討していただいて、原稿ができたら送っていただいても結構だと思います。

委員： 少しだけよろしいですか。私も史跡整備の経験があるのですが、そもそも史跡整備というのは、銚子山古墳はここにしかないわけで、ここにあるものをどうやって今の皆さんに分かってもらうかということが一番大事で、そのためにしっかり内容を把握しないといけないということで、史跡整備に伴う発掘調査をあらかじめやっているということがあります。現状の墳丘の外観だけでは理解できないために、発掘調査をして、しっかりそれなりの根拠を得て、その把握調査の成果も含めてこの説明板で生かして、よりよく理解してもらおうというのがまずは基本になってくると思いますので、その部分を軸に据えながらその表現方法がどうかとかいう話をしていくべきで、そうなったときに古墳そのものというのが、おっしゃるようにいきなり平坦面と言われても分からないので、斜面と平坦面が組み合わさりながらこの段々の築成になっていて、それぞれのところでその外表面が、葺石や埴輪がどういう使われ方をし、さらに銚子山古墳ではどういう特徴があるのか、実際には発掘調査でこういうものが出てきていますというようなことを、平易な文章で分かりやすく説明するというのが一番大事なことだと思います。もちろんそれを議論したときに、それが観光的なのか学習的なのかというようなところはありますが、ここにしかないものをどう理解してもらおうのかというところで、既にいろいろなデータを取られているので、その部分をどう表現していくのかということになるかと思いません。

あと子どもさん向けのパターンでいくときに、まず古墳って何なんやというところからスタートするかなと思います。いきなり前方後円墳、古墳時代前期と言っても分からないと思いますので、分かりやすくするということは、恐らく観光客にもそうでしょうし、子どもさんに向けても伝わるものが違うのかなと思いますので、古墳が何なのかとか古墳時代とか、例えば先ほどの話でいきますと、整備等も含めて現状を年表で見たときに、縄文時代の旧石器時代からずっと続いていく中で、この古墳の位置づけがどこどこにあって、今現在どこにいて、調査がこの辺から始まっているとかそういうものがあってもよいかと個人的には思いました。

委員： 歴史を勉強しないといけない。

教育長： 教育っていうところで今言われているが、知識をしっかり入れて、すごく分かるようにしようと思うと膨大な資料がある、平易にしていって。だから今の学びは知識をたくさん入れていこうというのではなくて、興味があったり課題となると思うようなところを自分から学んで調べていこうというスタイルにしようとしたら、量をたくさん載せることが子どもたちにとって教育的だとは私は思いませんけど。

委員： 年号の間違いについては一言言っておきます。西暦を最初にして、元号を後にする、それは逆だというお話がございました。それは指定のときはそうだったよっていうお話だったと思うんですけど、問題は、大正11年は西暦1922年ですが、資料3の②のですね最後には大正11年は1912年と書いてある。明らかに間違いですね。資料4【1】の最後のほうにも同じ間違いがあります。

会 長： そういうことはまた指摘していただくということで、文章で出してもらいましょう。

委 員： 先ほど来、観光とか教育とか出ていますが、仕上がった史跡を、それこそどう活用するかというのはこれから大きな課題なのですよね。その際にね、観光と教育とは別なんですよね。教育にももちろん使ってもらわないといけないし、それにはそれ用のプログラムが必要なのです。だけど中心は、今ここで事務局が一生懸命やっていたのはやっぱり観光というよりも、観光客、一般客、一般の方、それから小学生の高学年以上という人々に分かってもらうものをつくらうとしているわけですよね。もう1つ学校教育と網野銚子山古墳を、どういうふうにマッチさせていくかは、これは学校の先生方等の意見をお聞きしたり、そういう世界だと思うのです。だから観光と教育の両方を結果的には果たせますが、プロセスはだいぶ違うんですよね。だから、つくるほうは、活用と言うべきですが、観光に傾いた内容になっていくのではないかと僕は思います。

会 長： すいません、時間が迫っていますので、この辺で収めたいと思います。

先ほど話が出た、言葉の意味で分からないのがあるということも、また指摘してください。我々も当たり前にも思っている、これは一般の方には分からないよというような言葉があったら指摘していただいて、そこは分かるように書いていただくということで、よろしくをお願いします。

そしたら資料3と4、そういう格好で、今後になりますけども、皆様にご協力いただきながらつくっていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

次に、整備工事完了後の活用等についてということで、ご説明をお願いします。

## (2) 今後の網野銚子山古墳の活用について

～事務局説明～

会 長： いろいろとご意見があるかと思いますが、私から最初に、資料2-4に古墳ツアーとありますよね、これは募集をするわけですが、募集して集めるというよりも、1つの方法としては、全国各地に博物館とか歴史文化保存会とかそういう団体があるわけですよ。私の経験からしても、今までから、例えば東京だったら明治大学博物館に友の会があります。2泊3日ぐらいのツアーで来ます。それから、樫原考古学研究所の友の会の皆さん方が来る。そういう方々を案内したことがある。今聞いているのは豊中歴史同好会という団体です。これは塚口義信先生が指導されている団体で、そこも10月に丹後に来たいと言われているので、そういう団体を何とか探り出して、網野銚子山古墳の現状はこうなっていますよというPRをしておくべきだと思います。併せて丹後の古墳めぐりツアーをしてほしい。待つのではなく、こちらからツアーの発信をしてもよいのではないかと思います。今度豊中から来るのは日帰りです。朝8時頃向こうを出て、帰るのは6時か7時頃という。丹後をずっと

回る。そういうルートもあります。今はちょっと京都府立丹後郷土資料館が休館になってしまうのでそこは行けませんが、そういう所もあるのでそんなことも考えられたツアーを組んだらどうかと思います。

委員： 今回のツアーですが、基本的にはバスを使った、基本旅行業として、募集側から旅行商品ということでつくらせていただくのですが、観光として市外の方と、こういうオープニングイベントと合わせてやることによって、市内の方にも一緒にPRできるということで、日を決めて募集型というツアーをイメージしています。今おっしゃったような専門的な方々にもこれからもどんどんPRしていきたいと思えますし、受注型企画旅行商品として、そういった方々が行きやすい日にち、どういった日にちで行きたいとか、何人で行きたいとか、そういったご相談を受けることができます。その都度、宿泊とか併せてツアーをつくりたいと思っていますので、そういった伝手がありましたら私たちもPRしていきたいので教えていただいたりとか、前例としてこういうオープニングイベントがあつてこういうことができましたという情報を流していただければ、いくらでもこちらでツアーつくりますので、よろしくお願いいたします。

事務局： ありがとうございます。ほぼ全ておっしゃっていただいた感じになってはいますが、今回予定でお話したツアーというのは、あくまでも活用に向けた一例ですし、その団体だけが全てじゃなくてもっとたくさんの人に来ていただきたいということを考えれば、今会長からご提案いただいたような方々がまさにターゲットの1つというふうになると思いますので、そういったところもしっかり京丹後市観光公社さんと連携して、アピールしていければなと考えております。

会長： それとこの最後のページのイベントの関係ですが、最初に申し上げたように、イベントの場所はここはやっぱりまずい。このくびれ部のところが一番見映えのするところなので、やるなら前方部でなく、くびれ部でやるべきだろうと私は思います。

事務局： ありがとうございます。でもイベントのイメージ図は、特に赤いテントの配置については本当にラフなイメージなので、最終的にいろいろな方にご相談していく中でレイアウト決めをしたいなというのと、できれば一番見てほしい眺望の部分は、できるだけテントとかで邪魔しないでスカッと見えるような形での配置で、見て欲しいのはこれだというのが分かるようなレイアウトにしたいですね。というのは、制約あるとしたらキッチンカーは、中に乗り入れずに、タイル舗装しているところ、史跡の周溝部へダメージを与えないような位置に配置するとかいうことは検討しなければいけません、それ以外の部分については今後まだ1年ありますので、フレキシブルに考えていきたいと思っております。

委員： 参考になるかどうか分かりませんが、この間の連休に神明山古墳に遊びに行ったのですが、道の駅てんきてんき丹後も満杯でしたね。ちょうど昼前後で、駐車場に入れない状態で、駐車待ちしたり、諦めてよそに行ったり。その横に、立岩と大成

古墳がありますね。眺望がいいので、そこもものすごい人でした。ですが、下へ降り丹後古代の里資料館に入ると、私たちだけでした。それから、竹野神社へお参りして、神明山古墳へ上がっていったら2人だけおられた。神明山古墳は非常にきれいに整備されていまして、草も刈られて樹木も伐採されて、網野銚子山古墳と同じように見えます。それを見たのは僕は久しぶりで、こんなふうになっているんだと思って感動したんですけど。

これから先いろいろ手を打っていかないといけないと思いますが、京丹後市の場合、神明山古墳と網野銚子山古墳という2つの古墳が売りだと思うのです。日本海側最大。その2つを核にしていろいろなことを考えていく。その際にこういうイベント、もちろん初年度にこういうことを開催するのは大事だし、よく考えてやられてもよいと思いますが、1つは子どもさんと呼び込むというか、子どもさんを集めた催し物が1つあってもよいのではないかと思います。それは、学校とのタイアップにして、実は毎年毎年継続して、春か秋のどちらかに、中学生は無理かも知れませんが、小学生が必ず網野銚子山古墳へ行くという機会を学校の中でつくっていただいて、教育委員会とタイアップして、定期的に毎年やっていくというようなことも必要になってくるのではないかと思います。子どもさんが来れば必ず親御さんに伝わる。親御さんに伝わればそれだけ機会が深まる。もう1つは、地元の人だけを対象にした集まりもこれから先考えていかないといけないと思います。外部の他府県の人へのPRはもちろん大事だし、来て欲しいですけども、やはり地元の人を継続的に、祭りみたいな感じで、手を打っていくというようなことも考えられたらよいと思いますね。そういう際に、文化財だからと教育委員会の事務局だけでやろうと思ってもこれができないのですよね。必ず学校と連携するとか、あるいは市長部局の観光振興課とも一緒にやればよいと思う。一緒にやらないと、史跡をまちづくりとして位置づけて活用することはできない。単発で終わってしまう。オープニングしたら終わってしまうということになるのではないかと。その辺、連携が必要だと思います。教育と行政と教育委員会ね。

事務局： ありがとうございます。今日ご欠席の委員からも、このイベントをするときに、地元の方にもやっぱり関わっていただかないと、地元ごと自分ごとではなくて、行政が勝手にやっているイベントみたいな形になって距離が空いてしまうといけませんので、そこはうまく一緒にやっていただく仕組みを取り入れるべきだというご意見を、今日の会議に向けてちょうだいしておりました。

この会議の中でも何度かお話させていただきましたが、我々がずっとイベントをつくっていくということは、行政として無理だと思うのです。そうなると主体者となっていて、今度地元の方々も一緒に動いていただくとか自走できる形をつくらないと長くできないというのはあると思います。やり方、ターゲット、今おっしゃっていただいたいろいろな事案のときに、誰がどう関わってくるのかというのは、きちっと整理して行って、どこかだけではない、あとはその1個だけのイベントではないというふうにしていかないと、本当に、この1回だけで終わってしまう、あるいは私、あと1年半任期があるわけですが私いなくなったら、もう誰もやらないよみたいになってしまっただけが一番いけないというのがこの活用だということだと思いますので、我々の中でもよく話はしているのですが、そういったところをしっかりと

いきたいと思っております。ありがとうございます。

会 長： 用意しなければならぬことがたくさんあると思いますが、1つはガイド育成ですね。これは我々ではどうしようもないことなので、一般の人を公募するということになると思いますが、その辺のところもできるだけ早く準備していただいて、そして内容的にも、4回シリーズで予定されていますが、難しいですね。中身がね。どうするのかというあたりが。

委 員： 特に何があるということでもないんですけども、少なくとも、自分の育った郷土についてこれを広めていきたいと思いますという志のある方じゃないと、なかなかこれは続かないのではないかと思います。ガイドではありませんが、今論議されているようなことで、私自身も思いつくことがあるのですが、峰山小学校、当然網野でもそうですが丹後大震災に遭っているわけですね。峰山小学校は80人を超えた児童が亡くなっています。教員も多分4名ほどお亡くなりになっていると思います。というので3月8日に近い土曜日でしたかね、ずっと震災記念日というような形で伝えていこうということで、これは戦争のある時期も続いていたのです。それが、日本は高度経済成長に差し掛かった時期になると駄目になっちゃって、そういったこともあったんですけども、要は1つの学校が、これだと思ったらそれをずっと追求していくっていうのは、そんなことがあったほうがずっと続くのではないかと思います。だから、ここで言ったら何小学校、何中学校になるか分かりませんが、こういうような声が湧き上がってくると私は期待したいなと思っています。少なくとも峰山ではこういうことがあったということでご紹介をさせていただきます。

委 員： それこそ網野南小学校が、網野銚子山古墳が歩いていける距離にあるということで、子どもたちにそれを教材にして学習をさせて、将来的に、子どもガイドみたいなことができるような、そんな学習に結びつけたりだとか、子どもがパンフレットをつくったりだとか、そういう学びにつなげていきたいなという構想を聞かせてもらって、大変嬉しいと思っています。それと、丹後学として取り入れていきたいというあたりを聞かせてもらったりもしているので、ぜひ実現できるように教育委員会としてはバックアップしたいと思っていますところです。

会 長： ありがとうございます。大変よいお話だと思います。ぜひとも続けていっていただきたいと思います。琴引浜鳴き砂文化館では自然環境保全の学習ということで、市内の小学校6年生は必ず全員行くということで勉強していますので、それと同じような格好で網野銚子山古墳も実現できればよいなと思っています。

委 員： ⑧のガイド育成ということに関してですが、我々の網野町郷土文化保存会で、これをやろうかということで、1回目、今年の4月に総会がありまして、その総会が終わった後で、会長が書かれた論考を元に講演をお願いしました。あくまでもガイドということ念頭に置いての話でした。しかし、とてもじゃないけど時間が足りなかった。聞いたほうも難しすぎて分かりにくかったという意見がありました。そ

ういうことで、冒頭に会長からお話がありました歴史講座というのを年6、7回実施する予定です。1回目、2回目、3回目は、網野銚子山古墳に関するということで、いずれも会長は講師というので行っています。1回目はちょっとかみ砕いた話をさせていただいたのですが、それでもまだ難しい。我々はこういう場に参加させていただいているので、網野銚子山古墳に行ったことは当然ありますし、多くの人が行ったことがあると思いがちですが、実は網野周辺でも果たして10人のうち1人も行っているだろうか。行っていますか。本当にそんな感じです。行く人間は同じ人間で、何回も行く。要するに広がらないのです。どうやって網野銚子山古墳のファンをつくるか、広げるかということが、本当に大事なことだと思います。我々が全員ガイドをやるわけではありませんが、少しでも網野銚子山古墳についてのいろいろなことを勉強したいなと思っています。

そこで、冒頭の話と重なるかも知れませんが、この前銚子山の現地へ行って、25人か26人会員が集まって会長の話を聞いたのですが、そこでひそひそと話題になるのは、埋葬施設はどの辺にあるのか。木棺なのか石棺なのか、誰が葬られているのだろうか。それから、今のような重機なんてものは一切ない時代に、上から見ることはできない、そういう大昔の人間がこの網野銚子山古墳をつくったということで、一番謎と言えばそれが謎ですね。人力だけでやるとして、どれぐらいの人間が、どれぐらいの時間やお金がかけて、この網野銚子山古墳をつくったのだろうか。そういうようなことが話題になるのです。どれだけの人間が関わったのだろうか、どれだけの時間が必要で、どれだけのお金が必要だったのだろうかということを、ずっと以前、土建会社か何かある日本の大会社が試算をしているのがありまして、それを基にして、堺市の仁徳天皇陵と言われている大山古墳も試算されている。網野銚子山古墳は仁徳天皇陵の半分以下、3分の1かそれぐらいの大きさだということから、網野町出身の伴とし子さんが試算をして、どれぐらいの期間がかかったか、どれぐらいの人間が必要だったか、数字は忘れましたが、そういうことも、難しい話がずっとある中で、ちょっと一息入れるような形で、そういうことを入れたらどうかなという気もしました。長々と行って申し訳ありませんでした。

会 長： 謎が謎を呼ぶというあれなので、大変な内容ですけども、ほかにご意見ございませんか。そしたら時間も経過したようですので、終わらせてもらってよろしいですか。そしたら、そちらにお返しします。

事務局 皆さん、大変長い時間ありがとうございました。本当に今盛りだくさんの内容を、この時間内に無理やり収めようということで、途中事務局のほうからまた個別でみたいなお話をさせていただいたこと本当に申し訳ないです。

ただ、今日いただきましたお話を事務局持ち帰る部分もごございますし、先ほどの教育長の話もありますので、一定向かうべき方向性というのは、市としてもきちんと持った上で、このガイダンス施設もしくは網野銚子山の活用イベントを進めていきたいと考えておりますので、皆様今後ともよろしく願いいたします。

長時間お世話になりました。ありがとうございました。

### 3 閉会挨拶

副会長： どうも長時間ありがとうございました。

私は、この間神明山古墳を見せていただいて、改めて網野銚子山古墳の大きさが実感できましたけども、以前、網野銚子山古墳は網野町、神明山古墳は丹後町と分かれていた。それが合併によって、これは京丹後市が両方とも管轄できることになったんですね。だから、この2つを核にできる。これで、京丹後市の外に対する顔というか、もちろんほかにも文化財がいっぱいありますので、何もこの2つだけというわけではありませんが、まちづくりという観点から何かをやろうと思ったらこの2つで勝負をしていくというのは、1つの道かなというふうに思いました。

それといろいろ貴重な話を聞いていて、私なんかも元教育委員会の人間として文化財保護という仕事をずっとやってきたものですから、どうしても一言で言えば視野が狭い。ただ保存していく、後世に残したいというようなことでやってきたのですが、今はやっぱり、それだけでは。ただし、文化財が残っていなければ元も子もない話で、残っている話ですけども。その上に立ってこれを活用するということは、要するに、まちづくりに使うということなのですね。まちづくりのための素材なのだと。

だから教育委員会だけではできないんだということを、今日皆さんのお話をお聞きしていて思いました。

どうも、長時間ありがとうございました。